

第5学年1組 算数科学習指導案

日時 令和4年9月28日(水) 第5校時
場所 5年1組教室
授業者

1 単元名 「分数のたし算とひき算」

2 単元目標 分数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、通分、約分の方法を理解し、それをもとに異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、計算をすることができる。

3 既習内容との関連と、本単元の評価規準

【前単元までに身に付けてきた内容】

4年 14 分数
・真分数、仮分数、帯分数の用語と意味
・仮分数と帯分数の変換
・大きさの等しい分数
・同分子分数や同分母の仮分数と帯分数の大小比較
・同分母分数の加法と減法
5年 8 整数の性質
・倍数、公倍数、最小公倍数の理解
・約数、公約数、最大公約数の理解

【本単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 通分や約分の意味や方法を理解し、通分や約分をすることができる。 通分や約分を用いて、異分母分数の加法及び減法の計算をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の性質に着目し、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通分や約分の仕方、加法及び減法の計算の仕方を多面的に考え、既習事項をもとに考えようとしたり、よりよい方法を追究しようとしたりしている。

【今後の学習へのつながり】

5年 12 分数と小数、整数
・整数の除法の商の分数表示
・分数倍
・分数と小数、整数の変換
・小数と分数の混じった加法と減法
6年 2 分数と整数のかけ算・わり算
・分数×整数
・分数÷整数
・計算の途中の約分

4 児童の実態(男子8名 女子6名)

〈レディネス及び事前アンケートの結果〉
①同分母の分数の大小の比較(全1問)
⇒ $(\frac{6}{7}, 1\frac{2}{7}, \frac{8}{7})$ を大きい順で並べる
正答 10名
帯分数と仮分数の比較の誤り 3名
無回答 1名
②同分子の分数の大小の比較(全1問)
⇒ $(\frac{5}{8}, \frac{5}{3}, \frac{5}{4})$ を大きい順で並べる
正答 10名
分母の大きい順で並べてしまう 3名
無回答 1名
③同分母の分数のたし算(全2問)
⇒ $\frac{2}{4} + \frac{3}{4}$ 及び $1\frac{1}{6} + 2\frac{4}{6}$ の計算
正答 12名
帯分数のたし算での誤答 1名
無回答 1名
④同分母の分数のひき算(全2問)
⇒ $\frac{8}{7} - \frac{5}{7}$ 及び $4\frac{1}{5} - 1\frac{3}{5}$ の計算
正答 6名
帯分数のひき算での誤答 7名
無回答 1名
帯分数を含んだ減法において、繰り下がり
の操作が正確にできていない児童が目立つ。
整数部分から繰り下げる操作について全体で
おさえる必要がある。また、学習に粘り強く
取り組むことに困難さを抱える児童が1名い
るため、ICT等を用いて当該児童の学習意欲
を引き出せるような環境を設定する。
なお、算数の事前アンケートをとったと
ころ、「算数の交流や発表で、根拠をもとに筋
道立てて説明するようにしている」に当ては
まると答えた児童は6名であった。交流活動
で話を提示するなどして、筋道立てた説明
ができるようにする。

5 学習過程の工夫

<p>① つかむ 問題から、4年生までとの学習のちがいを考え、本時の課題をもたせる。課題を設定した時点で、教師が『間違っただけの考え』を示し、なぜ間違っているのかを全体で確認することで、学習の見通しをもたせる。 【研究内容1-(1)】</p>	<p>② 考える 児童が考え方を自己決定できるように、リットルますや線分図等のカードを用意し、選択して書き込めるようにする。 【研究内容1-(2)】</p>	<p>③ 深める 筋道立てた説明ができるよう、説明の視点を4つ与える。またジャムボードに全員の意見を集約し、多様な考え方に触れられるようにする。【研究内容2-(2)】 全体追究の際に「全ての考え方にも共通するところは何か。」と問いかけ、分母をそろえることでもとにする分数のいくつ分で計算できるように気付かせていく。</p>	<p>④ まとめる 考え方を比較すると、通分の方が、より簡単にすばやく計算できることを確認する。 NEW!GIFUWeb ラーニングを用いて、学習の定着をはかる。 【研究内容2-(3)】</p>
---	--	---	---

6 板書計画

9/28 分数のたし算とひき算

問 $\frac{1}{3}$ Lのジュースと $\frac{1}{2}$ Lのジュースがあります。合わせて何Lになりますか。

分かっていること $\frac{1}{3}$ L $\frac{1}{2}$ L
聞いていること 合わせて何L

式 $\frac{1}{3} + \frac{1}{2}$
これまでとちがうところ
・分母が違う分数をたしている

〈復習〉
分母のちがういくつかの分数を、
大きさを変えないで分母の等しい
分数にすることを、通分という。
例 $(\frac{3}{4}, \frac{4}{5}) = (\frac{15}{20}, \frac{16}{20})$

か 分母がちがう分数のたし算は、どうすれば計算できるか。

ま 分母のちがう分数のたし算は、通分をして、もとにする分数のいくつ分で考えれば計算できる。

分母がちがう

$\frac{1}{3} + \frac{1}{2} = \frac{2}{5}$
 $\frac{1}{2}$ より小さくなるのはおかしい
もとになる分数がちがう

→えんぴつ①(1)と(5)
終わったら残りの問題へ

どちらも分母をそろえている
通分の方が、図がなくても簡単にできる

もとにする分数をそろえる

- 1 - ○図を使って、分母をそろえる

○通分して、分母をそろえる

もとにする分数： $\frac{1}{6}$

$\frac{2}{6}$

$\frac{3}{6}$

1つ分の大きさが等しい

$\frac{1}{3} + \frac{1}{2} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$

合わせて

3と2の最小公倍数は、6

7 単元指導計画

小単元		分数の大きさ			
時数		1	2	3	4
ねらい	主な学習活動	分子も分母も異なる分数の大きさ比べについて、数直線や図を使って考え、比べ方を理解する。	大きさの等しい分数の分母どうし、分子どうしに成り立つ関係を理解する。	分子も分母も異なる分数の大きさ比べについて、計算で考え、「通分」の用語とその意味、方法を理解し、通分して分数の大きさを比べる。	通分する際は、分母の最小公倍数にそろえると簡単で分かりやすい分数になることに気付くとともに、3口の分数の通分の仕方を理解する。
	評価規準	分数の意味に着目したり、数直線や図を用いたりして、分数の大きさの比べ方を見出している。 【思考・判断・表現】	分数は、分母と分子に同じ数をかけても、分母と分子を同じ数でわっても、大きさは変わらないことが理解できる。 【知識・技能】	「通分」の用語とその意味や方法を理解し、通分したり、分数の大きさを比べたりすることができる。 【知識・技能】	最小公倍数にそろえる通分の仕方や、3口の分数の通分の仕方を理解し、通分することができる。 【知識・技能】
キーワード		もとにする分数	もとにする分数	通分	通分・最小公倍数
主なつまづきとその手立て		図や数直線を用いた比べ方が分からない。 ⇒教科書 p. 111 の数直線を用いて、同分母どうし、同分子どうしの分数の大きさの比較をさせることで、図や数直線を用いた比較の方法を確認する。	「大きさの等しい分数」という感覚がなく、形式的に解いている。 ⇒通分しても大きさは変わらないことについて、数直線や図を用いて確認する活動を行う。	分母のそろえ方が分からない。 ⇒前時までの学習に加え、公倍数の考え方を黒板に位置付け、常に振り返ることができるようにする。公倍数が捉えられない児童には、数直線を用いて考えさせる。	最小公倍数を分母にするよさを感じられない。 ⇒分母の数が大きい場合を取り上げる。最小公倍数の求め方が分からない。 ⇒分母の倍数を書いて見付ける方法を確認する。
指導内容	問題を提示する	・教科書 p. 111 の問題 1 を読む。	問題を提示する ・教科書 p. 113 の問題 2 を読む。	問題を提示する ・教科書 p. 114 の問題 3 を読む。	問題を提示する ・教科書 p. 115 の問題 4 を読む。
	指導内容	<p>① 分母も分子もちがう分数の大きさを比べるには、どうすればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線で考える。 → 2つの数直線を並べると、大きさが同じことが分かる。 図で考える。 → 2つの図を比べると、大きさが同じことが分かる。 もとにする分数の大きさを変えると、同じ大きさの分数でも色々な表し方ができる。 <p>まとめる</p> <p>② 分母も分子もちがう分数の大きさは、図や数直線を使って表すと、比べることができる。</p> <p>見届ける</p> <p>③ 分母も分子もちがう分数の大きさは、図や数直線を使って表すと、比べることができる。</p> <p>④ p. 112 鉛筆問題 1 に取り組む。 → できた人から GIFUweb ラーニング</p>	<p>① 大きさの等しい分数の関係について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どれももとにする分数が変わっただけで、大きさは変わっていない。 $\frac{4}{6}$、$\frac{6}{9}$ は、$\frac{2}{3}$ の分母、分子をそれぞれ2倍、3倍した分数である。 $\frac{2}{3}$ は、$\frac{4}{6}$、$\frac{6}{9}$ の分母、分子をそれぞれ÷2、÷3した分数である。 → これらのきまりは、他の大きさの等しい分数のときでも成り立つ。 <p>まとめる</p> <p>② 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、分母と分子を同じ数でわっても、大きさは変わらない。</p> <ul style="list-style-type: none"> p. 113 鉛筆問題 2 ①の解き方を全体で確認する。 <p>見届ける</p> <p>③ p. 113 鉛筆問題 2 ②③に取り組む。 → できた人は残りの問題に取り組む。</p>	<p>① 分数の大きさを数直線や図を使わずに比べるにはどうすればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分母と分子を2倍、3倍・・・して、分母が等しくなる分数を探す。 $\frac{3}{4} = \frac{6}{8} = \frac{9}{12} = \frac{12}{16} = \frac{15}{20}$ $\frac{4}{5} = \frac{8}{10} = \frac{12}{15} = \frac{16}{20}$ 4と5の最小公倍数を分母にする。 $\frac{3}{4} = \frac{3 \times 5}{4 \times 5} = \frac{15}{20}$ $\frac{4}{5} = \frac{4 \times 4}{5 \times 4} = \frac{16}{20}$ <p>教える</p> <p>分母のちがういくつかの分数を、大きさを変えないで分母の等しい分数にすることを、通分するという。</p> <p>まとめる</p> <p>② 分母のちがう分数の大きさを比べるには、通分するとよい。</p> <p>見届ける</p> <p>③ p. 114 鉛筆問題 4 ①に取り組む。 → できた人は残りの問題に取り組む。</p>	<p>① より簡単に通分する方法はあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分母どうしをかける通分 $\frac{3}{4} = \frac{3 \times 6}{4 \times 6} = \frac{18}{24}$ $\frac{5}{6} = \frac{5 \times 4}{6 \times 4} = \frac{20}{24}$ 4と6の最小公倍数を分母にする通分 $\frac{3}{4} = \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12}$ $\frac{5}{6} = \frac{5 \times 2}{6 \times 2} = \frac{10}{12}$ → 最小公倍数を分母にして通分した方が、数値が小さくてすむ。 p. 115 【さらに考えよう】に取り組む。 → 帯分数の通分のしかたを確認する。 <p>問題を提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 115 の問題 5 を読む。 → 3と5と9の最小公倍数を分母にして通分すればよい。 <p>まとめる</p> <p>② より簡単に通分するには、それぞれの分母の最小公倍数でそろえるとよい。</p> <p>見届ける</p> <p>③ p. 115 鉛筆問題 6 ① 7 ①に取り組む。 → できた人は残りの問題に取り組む。</p>

小単元	分数の大きさ		分数のたし算とひき算		
時数	5	6 (本時)	7	8	
ねらい	主な学習活動	大きさの分かりやすい分数になおす活動を通して、「約分」の用語とその意味、方法を理解する。	異分母分数の加法、減法の計算原理や方法を理解し、計算の仕方を説明する。	答えが約分できる加法、減法の計算や、3口の分数の加法、減法の計算の方法を理解し、計算する。	帯分数の加法、減法の計算の方法を理解し、計算する。
	評価規準	「約分」の用語とその意味や方法を理解し、約分することができる。 【知識・技能】	異分母どうしの分数のたし算、ひき算のしかたについて考え、分母をそろえることでもとにする分数のいくつ分で計算できることに気付き、説明することができる。 【思考・判断・表現】	答えを約分すると大きさが分かりやすくなることや、3口の加法、減法の仕方を理解し、計算できる。 【知識・技能】	帯分数の加法、減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 【知識・技能】
キーワード	約分・公約数・最大公約数	もとにする分数・分母をそろえる・通分	通分・約分・最小公倍数	繰り下がり	
主なつまづきとその手立て	最大公約数の求め方が分からない。 ⇒数直線を用いてそれぞれの約数を書き出し、見付けさせる。	分母をそろえることができない。 ⇒前時までの学習を黒板に位置付け、常に振り返ることができるようにする。	通分、約分ができない。 ⇒前時までの学習を黒板に位置付け、常に振り返ることができるようにする。	帯分数の加法、減法ができない。 ⇒第4学年での学習を振り返りつつ、困難な場合は仮分数になおして計算させる。	
指導内容	問題を提示する ・教科書 p. 116 の問題 6 を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> か 大きさの分かりやすい分数になおすにはどうすればよいか。 </div> ・分母どうしの 公約数 でわり進める $\frac{12}{18} = \frac{12 \div 2}{18 \div 2} = \frac{6}{9} = \frac{6 \div 3}{9 \div 3} = \frac{2}{3}$ ・12 と 18 の 最大公約数 で分母と分子をわる $\frac{12}{18} = \frac{12 \div 6}{18 \div 6} = \frac{2}{3}$ 教える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 分数の分母と分子をそれらの 公約数 でわり、分母の小さい分数にすることを 約分 するという。 </div> → 約分 すると、大きさが分かりやすい。分母と分子の 最大公約数 でわると、1回で約分できる。 まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ま 大きさの分かりやすい分数になおすには、約分 するとよい。 </div> 見届ける 評 ・ p. 116 鉛筆問題 8 ① に取り組む。 →できた人は残りの問題に取り組む。 振り返る ・ p. 116 鉛筆問題 9 にペアで取り組み、これまでの学習内容を振り返る。	問題を提示する ・教科書 p. 117 の問題 1 を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> か 分母のちがう分数のたし算は、どうすれば計算できるか。 </div> ・図を使って 分母をそろえる もとにする分数を $\frac{1}{6}$ で考えると、 $\frac{1}{3} = \frac{2}{6} \qquad \frac{1}{2} = \frac{3}{6}$ $\frac{1}{3} \text{ は } \frac{1}{6} \text{ の } 2 \text{ 個分、} \frac{1}{2} \text{ は } \frac{1}{6} \text{ の } 3 \text{ 個分}$ だから合わせた数は、 $\frac{5}{6}$ である。 ・ 通分 で 分母をそろえて 計算する $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$ まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ま 分母のちがう分数のたし算は、通分 をして、もとにする分数 のいくつ分で考えれば計算できる。 </div> 見届ける 評 ・ p. 117 鉛筆問題 1 ①⑤ に取り組む。 →できた人は残りの問題に取り組む。	問題を提示する ・教科書 p. 118 の問題 2 を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> か 分数のたし算、ひき算のしかたをさらに考えよう。 </div> ・答えを 約分 して簡単な分数にする $\frac{5}{12} + \frac{1}{3} = \frac{5}{12} + \frac{4}{12} = \frac{9}{12} = \frac{3}{4}$ →答えが約分できるときは、ふつう約分する。 問題を提示する ・教科書 p. 118 の問題 3 を読む。 ・2口ずつ通分して計算する。 $\frac{3}{4} - \frac{1}{2} + \frac{5}{8} = \frac{3}{4} - \frac{2}{4} + \frac{5}{8} = \frac{1}{4} + \frac{5}{8} = \frac{2}{8} + \frac{5}{8} = \frac{7}{8}$ ・3口をまとめて 通分 する。 $\frac{3}{4} - \frac{1}{2} + \frac{5}{8} = \frac{6}{8} - \frac{4}{8} + \frac{5}{8} = \frac{7}{8}$ →3つの分母の 最小公倍数 でそろえると計算しやすい。 まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ま 分数のたし算、ひき算のしかた ・答えが 約分 できるときは、ふつう 約分 する。 ・3口の分数のたし算、ひき算は、3つの分母の 最小公倍数 で 通分 すると計算しやすい。 </div> 見届ける 評 ・ p. 118 鉛筆問題 2 ①③ ① に取り組む。 →できた人は残りの問題に取り組む。	問題を提示する ・教科書 p. 119 の問題 4 を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> か 帯分数のたし算、ひき算のしかたを考えよう。 </div> ・帯分数のまま計算する。 $2\frac{2}{5} + 1\frac{2}{3} = 2\frac{6}{15} + 1\frac{10}{15} = 3\frac{16}{15} = 4\frac{1}{15}$ ・仮分数になおして計算する。 $2\frac{2}{5} + 1\frac{2}{3} = \frac{12}{5} + \frac{5}{3} = \frac{36}{15} + \frac{25}{15} = \frac{61}{15}$ →どちらの方法でも計算できる。 問題を提示する ・教科書 p. 119 の問題 5 を読む。 ・ 繰り下がり をして計算する。 $4\frac{1}{6} - 2\frac{3}{4} = 4\frac{2}{12} - 2\frac{9}{12} = 3\frac{14}{12} - 2\frac{9}{12} = 1\frac{5}{12}$ ・仮分数になおして計算する。 $4\frac{1}{6} - 2\frac{3}{4} = \frac{25}{6} - \frac{11}{4} = \frac{50}{12} - \frac{33}{12} = \frac{17}{12}$ →どちらの方法でも計算できる。 まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ま 帯分数のたし算、ひき算は、整数どうし・分数どうしを計算する方法と、仮分数になおして計算する方法がある。 </div> 見届ける 評 ・ p. 119 鉛筆問題 4 ①⑤ ① に取り組む。 →できた人は残りの問題に取り組む。	

小単元	たしかめ問題	読み取る力をのぼそう
時数	9	10
ねらい	主な学習活動	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。
	評価規準	分数の約分、通分や加法、減法の計算ができる。 【知識・技能】 分数の意味や単位に着目して、異分母分数の計算の仕方を説明している。 【思考・判断・表現】
キーワード	本時までに学んできたことをまとめて掲示する	
主なつまづきとその手立て	分数の約分、通分や加法、減法の計算ができない。 ⇒各自で答え合わせのできる場作りをしておくことで、算数に苦手意識をもつ児童の支援につく時間を確保する。 ⇒これまでの学びの足跡を掲示し、すぐに振り返ることができるようにする。	楽譜の表す意味が理解できない。 ⇒解いた問題が実際にどのような音楽になるのかを聞くことで、イメージができるようにする。
指導内容	問題を提示する ・教科書 p. 120～121 の 確かめ問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> か いろいろな問題にチャレンジしよう。 </div> 教える ・練習問題を大問ごとに取り組む。 ・大問ごとに各自で答え合わせをする。 ・できた児童は、周りの児童に支援を行う。 ・練習プリントに取り組む。 →できた人から GIFUweb ラーニング	教える ・教科書 p. 122 を読む。 問題を提示する ・教科書 p. 122 の問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> か 分数の考え方をを使って、楽譜に入る音符や休符について考えよう。 </div> ・問1～3に取り組み、大問ごとに全体で確認をする。 ・解いた問題が実際にどのような音楽になるのかを聞くことで、リズムを作るには分数の考え方が重要であることに気付かせる。 発展させる ・音楽の教科書を用いて、既に学習した曲の楽譜で考えさせる。

8 本時のねらい

式や図をもとにして異分母分数の加法、減法の計算方法を考える活動を通して、単位分数に着目し、分母をそろえればもとにする分数のいくつ分で計算できることに気づき、異分母同士の加法や減法の計算の仕方を説明することができる。

9 本時の展開 (6 / 10) 〈解決型〉

過程	学 習 活 動	指導・援助・評価
つかむ	<p>1 問題提示</p> <p>問 $\frac{1}{3}$ L のジュースと $\frac{1}{2}$ L のジュースがあります。合わせて何 L になりますか。</p> <p>・分かっていることは「$\frac{1}{3}$ L のジュースと $\frac{1}{2}$ L のジュースがあります。」です。 ・聞いていることは「合わせて何 L になりますか。」です。 ・「合わせて」なので、たし算になります。だから、求める式は $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ です。 ・4年までの問題とちがって、分母のちがう分数のたし算になっています。</p>	<p>指導・援助・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の足跡(定義、公式)を掲示し、振り返ることができるようにしておく。【研究内容1-(2)】 分かっていることに直線、聞いていることに波線を引き、第4学年での学習との違いを明確にさせることで、本時の学習課題につなげる。
考える	<p>2 課題設定</p> <p>課 分母のちがう分数のたし算は、どうすれば計算できるか。</p> <p>3 見通し</p> <p>・これまでの学習を使って「分母をそろえる」ことができれば計算できそう。</p> <p>4 個人追究</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="233 879 946 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【図を使って考える(リットルます・線分図)】</p> <p>〈方法〉もとにする分数を $\frac{1}{6}$ として考えると、</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center;"> $\frac{1}{3} = \frac{2}{6}$ </div> <div style="width: 100px; border: 1px solid black; height: 40px; margin: 0 10px;"></div> <div style="text-align: center;"> $\frac{1}{2} = \frac{3}{6}$ </div> </div> <p>$\frac{1}{3}$ は $\frac{1}{6}$ の2こ分、$\frac{1}{2}$ は $\frac{1}{6}$ の3こ分</p> <p>だから合わせた数は、$\frac{1}{6}$ の5こ分で $\frac{5}{6}$ である。</p> <p>〈理由〉1つ分の大きさをそろえると、もとにする分数のいくつ分で求めることができるから。 〈結論〉分母をそろえて計算する。</p> </div> <div data-bbox="974 879 1646 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【通分をして分母をそろえる】</p> <p>〈方法〉通分をしても大きさは変わらないので、通分をして分母をそろえて計算する。2と3の最小公倍数は6なので、分母を6にそろえる。</p> <p>$(\frac{1}{2}, \frac{1}{3}) = (\frac{1 \times 3}{2 \times 3}, \frac{1 \times 2}{3 \times 2}) = (\frac{3}{6}, \frac{2}{6})$ より $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$</p> <p>だから合わせた数は、$\frac{5}{6}$ である。</p> <p>〈理由〉通分で分母をそろえれば、4年生までの学習で計算できるから。 〈結論〉通分で分母をそろえて計算する。</p> </div> </div>	<p>・課題を設定した時点で、全体で以下の考え方に触れる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 分母と分子をそれぞれたして、$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$ となる。 </div> <p>⇒なぜこれが間違っているのかを、図を用いて考えることで、単位分数が異なっていると計算できないことに気付かせる。また、第4学年の学習を振り返り、同じ分母の分数同士であれば計算できることを捉えさせ、本時の学習の見通しをもたせる。</p>
深める	<p>5 スクラブル交流→全体追究</p> <p>・どちらの考え方も、「分母をそろえて計算する」という点が同じです。 ・分母をそろえることで、「もとにする分数のいくつ分」で考えることができるから、計算できます。</p> <p>6 一般化</p> <p>・ひき算の場合でも、「通分」をして「分母をそろえれば」、計算できます。</p> <p>7 まとめ</p> <p>ま 分母のちがう分数のたし算は、「通分」をして、「もとにする分数」のいくつ分で考えれば計算できる。</p> <p>8 p. 117 鉛筆問題①⑤(評価問題)①は解き方をペアに説明する ※一点突破 評価問題8割以上の正答 →できた人から、残りの問題及びGIFUwebラーニングに取り組む。</p>	<p>・児童が考え方を自己決定できるように、リットルますや線分図等のカードを用意し、選択して書き込めるようにする。【研究内容1-(2)】</p> <p>・相手意識をもち、筋道立てた説明ができるよう、交流活動の際には以下の4つの視点を与える。【研究内容2-(1)】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①順序立てて話すこと。(まず、次に、それから～) ②これまでに学んだ算数キーワードを使うこと。 ③ジャムボードを指し示しながら話すこと。 ④方法(式や図)・理由・結論の順に話すこと。 </div> <p>・ジャムボードに全員の意見を集約し、全体で共有ができるようにする。その際に、考え方によって付箋で色分けを行う。スクランブル交流の際に、</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①考え方を確実にしたい人は同じ色の付箋の児童同士 ②考え方を広げたい児童は異なる色の付箋の児童同士 </div> <p>と交流するように伝えることで、目的意識をもって交流できるようにする。【研究内容2-(2)】</p> <p>・(深め)全体追究の際に「全ての考え方にも共通するところはあるか。」と問いかけることで、分母をそろえることでももとにする分数のいくつ分で計算できることに気付かせていく。 ・ひき算の場合も取り上げ、考え方の一般化をはかる。</p>
まとめる		<p>〈評価規準〉</p> <p>異分母どうしの分数のたし算、ひき算のしかたについて考え、分母をそろえることでもとにする分数のいくつ分で計算できることに気づき、説明することができる。【思考・判断・表現】</p>